

第6学年体育科「キャッチバレーボール」

日時：9月14日（木）5時間目

対象：第6学年1組30名

1 単元名「キャッチバレーボール」

2 単元の目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- サーブ、レシーブ、アタック、パス（トス）などの基本的な動きを身に付け、チームの中でボールをつないでゲームができる。 - チームの連携プレーで相手チームが捕りにくいようなボールを打てるように、適切な場所に素早く移動することができる。	- 自分に合っためあてをもち、練習の仕方を選択する。 - チームのよさや特徴を見付け、それを生かした作戦を立てたり、チームに合った練習を工夫したりする。	- キャッチバレーボールの楽しさを味わい運動に積極的に取り組み、ルールやマナーを守り助け合って運動をしようとしている。 - 互いに励まし合ったり、協力し合ったりしながら練習やゲームをする。

3 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①サーブ、レシーブ、アタック、パス（トス）の基本的な技能を身に付け、チームでボールをつないでゲームができる。 ②チームの連携プレーで相手のいないところや相手が捕れないようなところにボールを返せるように、適切な場所に素早く動くことができる。	①教師や友達からの言葉掛けや学習資料を基に、自分に合っためあてをもって練習している。 ②自分のチームの特徴を生かしながらめあてや作戦を立て、それらに合った練習の方法を考えることができる。	①友達の動きを認め、励まし合ったり、協力し合ったりしながら運動しようとしている。 ②ルールやマナーを守り、安全に気を付けながら運動しようとしている。

4 児童の実態

5 目指す児童像

「運動やスポーツに親しむ子」

本時の具体的な手だて	期待される児童の姿
下赤塚小学校の教員によるアタックやパスの模範実技をする。	自分もアタックしてみたいと意欲をもつ姿
トス、アタック、キャッチを順番で練習するための5人組をつくる。	全員がミニゲームに必要な最低限の技を経験し、ミニゲームへの意欲をもつ姿
よかった言葉がけを子供同士が振り返り、紹介し合う中で、教師が価値付ける。	「ナイス」「大丈夫」など温かい言葉で励まし合い、積極的に運動に参加しようとする姿
児童の実態に合わせたルールでミニゲームを行う。	技能に自信がない児童も積極的にミニゲームに参加しようとする姿

6 本時案（6時間扱いの1時間目）

（1）本時のねらい

安全な学習の進め方などを理解するとともに、パスを繋いだり、簡単なゲームを行ったりすることを通してキャッチバレーボールの楽しさを味わい、これからの学習への意欲を高める。

（2）本時の展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	□指導上の留意点 ☆期待する児童の姿 評価【評価方法】
導入	○学習内容を確認する。 ・今日からキャッチバレーボールを行う。あまりやったことがないから自信がない。 ○レシーブ、アタックの模範実技を見学する。 ・アタックを自分もやってみたい。 ・うまくできるか自信がない。 ・ドッジボールが得意だからきっとキャッチはできる。	□事前に行ったアンケート結果を紹介することで、活動への関心をもてるようにする。 □下赤塚小学校の教員の模範実技を見ることで、自分もやってみたいという気持ちが高まるようにする。
安全な学習の進め方を知り、キャッチバレーボールの楽しさを見つけよう		
展開	○準備運動をする。 ○場の準備をする。 ○五角形になり、パスの練習をする。 ・ボールをキャッチすることに慣れてきた。 ○トスされたボールをアタックする。 ・アタックを上手にできると気持ちがいい。 ・ワンバウンドさせればキャッチできそう。	□使う部位を意識させながら準備運動に取り組めるよう声掛けをする □安全に準備ができるよう準備の仕方を説明する。 □5人組で五角形をつくり、パスを出し合うことでボールに触る感覚や、パスを繋ぐ楽しさを味わえるようにする。 □5人組でトス、アタック、キャッチを順番で練習することで、全員がミニゲームに必要な最低限の技を経験できるようにする。
<手だて> 児童の実態に合わせたルールでミニゲームを行う。		
	○ルールを確認し、簡単なミニゲームを行う。 ・アタックをキャッチするのは思っていたよりも難しい。 ・アタックをきめるには、トスの出し方が大切だ。	□ルールを事前に大まかに説明しておくことで、ゲームの説明時間を短縮する。 ☆技能に自信がない児童も積極的にミニゲームに参加しようとする
まとめ	○片付けをする。 ○整理運動をする。 ○学習の振り返りをする。 ・最初は上手にアタックが打てなくて難しかったが、アタックがきまると楽しかった。次の体育の授業が楽しみだ。	□安全に協力して片付けるよう声掛けをする。 □使った部位をほぐすように声掛けをする。 主①振り返りの記述から、キャッチバレーボールの楽しさを味わっていたか評価する。【観察・学習カード・聞き取り】 □B基準に達していない児童に対しては、個別に声をかけたり、子供同士の話し合いの場を設定したりしながら、次時の学習活動を工夫する。

補助資料

第一時のゲームのルール

チーム	・ チーム数は6チームで1チーム5人編成。 ・ チームの人数は4～5人。(コートに入っているのは4人 順番制) ・ 自分のチームが得点したらメンバーチェンジ、ポジションチェンジ
サーブ	・ 下投げで相手のコートに入れる。 ・ 得点したチームが次のサーブを打つ。 ・ サーブは4番の位置の人が行う。
リターン	・ アタックは1回目からキャッチすることが可能 ・ アタックはワンバウンドしてからキャッチすることが可能 ・ トスをあげる人はキャッチしたボールを投げる事が可能。 ・ 必ず3回～4回で相手に返す。 ・ ボールを持った人は歩くことができない。
得点	・ 相手のコートにボールが落ちて2バウンド以上したら1点。 ・ 相手のコートに返球できなかったら1点
コート	・ バドミントンのコート ・ バドミントンのネットを使う。
用具	・ 白のソフトバレーボールを使う
時間	・ 7分
審判	・ セルフジャッジ